札幌国税局長賞

小樽市立菁園中学校　3年
倉本　陸

人口減少による税への影響

小樽の街を歩いていると、シャッターが閉まったお店が目につきます。学校でもクラスの数が減り、人口減少を身近に感じるようになりました。ニュースでは少子高齢化が日本の大きな問題だと報じられています。そこで私は、人口減少が生活を支える税金にどう影響するのか疑問に思い、地域と税金について考えることにしました。

社会の授業で、道路の整備やごみ収集、学校、消防など、当たり前に利用しているものは税金で支えられていると学びました。調べていく中で、2050年には小樽市の人口が現在の約半分の約55,000人に減る可能性があると知り、衝撃を受けました。また、約二十五年前の「平成の大合併」により、全国の市町村数が約3,000から約1,700へと半減したことも知りました。行政を効率化して人口減少に対応する目的があったそうです。今後再び合併が起こるかは分かりませんが、日本のどこに住んでいても安心して暮らせる社会であってほしいと強く思いました。

人口が減ることで生じる大きな問題の一つは、税金を納める働く世代が減ることです。その一方で、高齢者を支えるための社会保障費は増えていきます。私の祖父母も介護保険を利用しており、そのおかげで安心して生活できています。こうした制度は多くの人が納める税金で支えられており、税金は単に徴収されるお金ではなく、人々を支え合う大切な仕組みなのだと実感しました。

しかし、働く世代が減れば、これまで通りの行政サービスを維持することは難しくなります。消防や水道、道路整備といった不可欠な仕事を簡単に減らすことはできません。だからこそ、限られた税金を本当に必要なところへ計画的に使うことが重要です。今後は、当たり前だった施設やサービスが見直される時代になるかもしれません。私たちはその変化を受け止めるだけでなく、自らも地域を支える一員になる必要があります。

では、私たちはこれからどのように行動していけばよいのでしょうか。まず、税金の使

い道に関心を持つことです。使えるお金が限られるからこそ、多くの人の命や安心を守るために正しく使われているかを見極める必要があります。次に、行政だけに頼るのではなく、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加し、地域の力を強めていくことです。

　中学生の私たちにはまだ選挙権がなく、多くに税金を納めているわけではありません。しかし、数年後には社会を支える立場になります。そのときにどんな地域をつくっていきたいかを考え、行動する責任があります。

　今回の学びを通じ、人口減少は税金や地域の未来に深く関わっていると分かりました。これからは街の変化やニュースに関心を持ち本当に必要なものは何かを考えられる力を身につけていきたいです。